

## 野帳とは

スカウトのハイキングの醍醐味の一つは、ファミリーハイキングみたいな単なる「野外散歩」とは違って、自分たちの通ったルートを「どれだけ正確に記録して報告できるか」という腕比べのゲームの面白さにある。ルートにあるものは何も見逃さない。自分たちの記録からばっちりルートを再現する地図を作れる。そのため記録帳のことを「野帳」というんだ。

「野帳」は気象関係者などがフィールドでの観察を記録した「やちょう」と同じ言葉だけど、スカウトの世界では「野鳥」と間違えないように「のちょう」と呼ばれたりする。

ハイキングの道中、なるべく細かなことを正確に記入する必要があるけど、もたもた記入しているひまはない。だから、きちんと整理された形で、記入しやすい形でなければならず、かつその記入によく慣れておく必要がある。



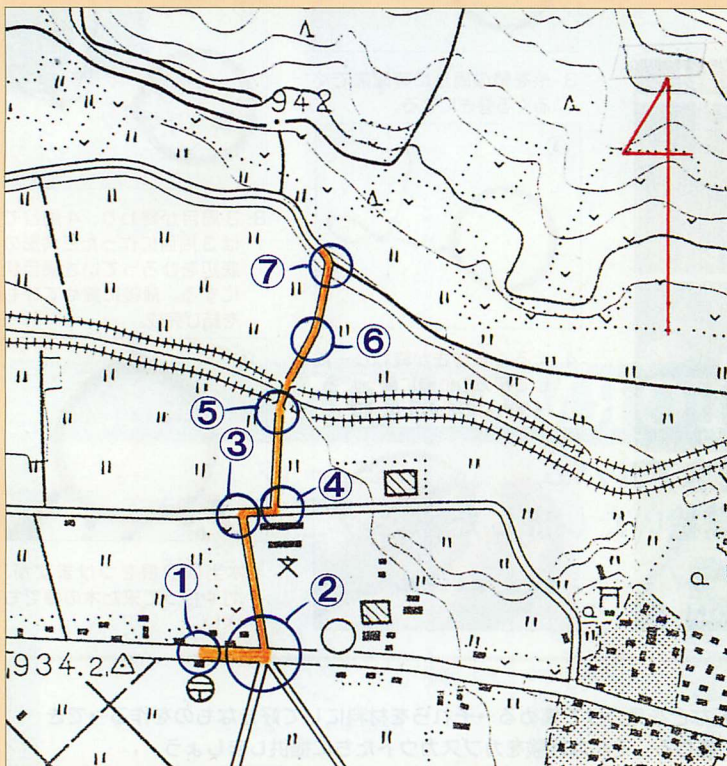
**ルート上にあるものは見逃さない!**

# 野帳パーフェクトマスター術

「野帳」って、ボーイ隊のスカウトなら知ってるよね? スカウトハンドブックにも出てくるけど、いまいち書き方がわからないというスカウトもいるかもしれない。ハイキング記録の要となる「野帳」の記入法をこの春のハイキングでマスターしちゃおう!

## 野帳のつけかた

実際の地図を見ながら、どんなふうに入力していけばいいかを見ていこう。ハンドブックには一線式と二線式の記入例があるけど、基本は同じ。ここでは二線式を例にその記入法を紹介しよう。



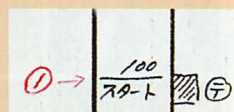
## A: 書式

まずは書式。右の書式はハンドブックにも紹介されている二線式の例。これではきやいけないというものではないので、自分たちの班でアイデアを出し合って、より使いやすい書式を決めればよい。

パソコンの表計算ソフトなどを使って用紙を作ってもいいし、市販のノートに縦線だけを定規で引いたものでももちろんOKだ。

左側	方位角 歩数	右側	時刻	記事・注意事項

## B: 記入方法



地図上の①のところがスタート地点。

ページの一番下から記入を始める。スタートと書いた上に、進む方向の方位角(例では100度)を記入しておく。歩き始める方向にコンパスの進行線に向け、磁針の赤いほうが示す北にコンパスのリングの北をあわせるとき、進行線のところのリングの目盛が進む方向の方位角。磁北線と地図上の北との偏差は報告書に転記するときまとめて考慮することにしよう。

出発するとき、右側に郵便局があるので、それを右側に書いておく。

地図上の②の地点、5差路。

まず記入欄の中央に線を引いて、その下に前の記録地点(この場合は①のスタート地点)からの「歩数(例では125)」を記入する。特に歩測に慣れているスカウトなら距離に換算してもかまわないが、「野帳」は記入のスピードも大事だから、ここは単純に歩数を書いておき、あとでまとめて換算しよう。

